

対象バージョン: SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

ドキュメント番号: SSC0301-doc-0039-6

【SigmaSystemCenter 3.0-3.2】SigmaSystemCenterのインストール、アップグレード、およびアンインストールに関する注意事項、トラブルシューティング

SigmaSystemCenter 3.xのインストール時、およびアップグレード時の注意事項や、SigmaSystemCenter 3.xのインストール、アップグレードインストール中に問題が起こった際の対処方法について説明します。

以下の項目について、説明します。

- IISのhttpポートが "80" 以外の環境で、SigmaSystemCenter 3.xにアップグレードインストールを行う場合の手順について
- SigmaSystemCenterが使用するSQL Server 2012インスタンスを手動でインストールする場合の手順について
- セキュリティレベルが異なる複数のネットワークに接続する管理サーバでインストールする場合の注意事項について
- CLUSTERPRO MC ProcessSaverがインストールされている環境でSigmaSystemCenterのアップグレード中にSystemProvisioningのエラーが発生する問題の対処方法について
- CLUSTERPRO MC ProcessSaverがインストールされている環境でアップグレードインストールを行う場合の注意事項について
- CLUSTERPRO MC ProcessSaverがインストールされている環境でアンインストールを行う場合の注意事項について
- SigmaSystemCenterのインストール中にDPMサーバのインストールでエラーが発生する問題の対処方法について
- SigmaSystemCenterをアップグレードインストールする際の、SystemProvisioningのレジストリに関する注意事項について

また、【参考情報】に記載されていますインストールガイドの「5. トラブルシューティング」の説明も参照してください。

1. IISのhttpポートが "80" 以外の環境で、SigmaSystemCenter 3.xにアップグレードインストールを行う場合の手順

[バージョン]

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1

[手順]

IISのhttpポートが "80" 以外に設定されている環境で、SystemProvisioningをSigmaSystemCenter 3.x (3.0, 3.0u1, 3.1, 3.1u1)にアップグレードインストールする場合は、アップグレードインストール前にhttpポートを "80" に変更してから行ってください。

手順は以下の通りです。

「Default Web Site」のhttpポートを "81" に設定している場合を例としています。

1. [スタート] メニューから [管理ツール] - [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー] を選択し、インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャーを起動します。
2. 左側のツリービューで [(既定値: マシン名)] ノードから、[サイト] - [Default Web Site] を選択します。
3. 右側の [操作] - [サイトの編集] から [バインド...] をクリックします。
4. 「サイト バインド」ダイアログボックスが表示されます。[http] を選択して、[編集(E)] をクリックします。
5. 「サイトバインドの編集」ダイアログボックスが表示されます。[ポート(O)] を "81" から "80" に変更します。
6. SigmaSystemCenter 3.xにアップグレードインストールします。
7. 1.から5.までと同じ手順で、httpポートを "80" から "81" に変更します。

[上記手順を実施しなかった場合の影響と対処方法]

- SigmaSystemCenter 2.0から3.0, 3.0u1, 3.1, 3.1u1にアップグレードインストールした場合
現象: SystemProvisioningのアップグレードインストールに失敗する場合があります。
対処方法: httpポートを "80" に変更した後、再度アップグレードインストールを実施してください。
- SigmaSystemCenter 2.1から3.0, 3.0u1, 3.1, 3.1u1にアップグレードインストールした場合
ご使用のSigmaSystemCenter 2.1 Update版によって以下の2つのパターンがあります。
 - 現象: SystemProvisioningのアップグレードインストールに失敗する場合があります。
対処方法: httpポートを "80" に変更した後、再度アップグレードインストールを実施してください。
 - 現象: SystemProvisioningのアップグレードインストール後に、Webコンソールにアクセスできなくなる場合があります。
対処方法: 下記の[IIS構成情報の採取]で情報を採取した上で、お問い合わせください。
- SigmaSystemCenter 3.0, 3.0u1から3.1u1にアップグレードインストールした場合
現象: SystemProvisioningのアップグレードインストール後に、Webコンソールにアクセスできなくなる場合があります。
対処方法: 下記の[IIS構成情報の採取]で情報を採取した上で、お問い合わせください。

[IIS構成情報の採取]

以下の手順でIIS構成情報のバックアップの採取をお願いします。

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/ff453992.aspx>
AppCmd.exe を使用してIIS構成情報のバックアップを作成します。

1. 管理者としてコマンド プロンプトを開き、%windir%\system32\inetsrv\ ディレクトリへ移動します。
2. コマンド プロンプトで、appcmd add backup "FirstBackup" を入力し、[Enter] を押します。
3. コマンド実行後に、%windir%\system32\inetsrv\backup\ 配下に「FirstBackup」のフォルダが作成されます。
「FirstBackup」のフォルダをコピーして採取してください。

2. SigmaSystemCenterが使用するSQL Server 2012インスタンスを手動でインストールする場合の手順

[バージョン]

SSC3.1u1, SSC3.2

[手順]

SigmaSystemCenterが使用するSQL Server 2012のインスタンスを事前に手動でインストールする場合は、SQL Server 2012のインストール中の「データベースエンジンの構成」画面のSQL Server 管理者

の指定に"NT AUTHORITY\SYSTEM(SYSTEM)" を追加する必要があります。

- SystemProvisioning、SystemMonitor性能監視が使用するインスタンス名は「SSCCMDB」(既定値)です。
- DeploymentManagerが使用するインスタンス名は「DPMDBI」(既定値)です。
SigmaSystemCenter 3.1u1以前は、「DPMDBI」(固定値)です。

手順は以下の通りです。

SQL Server 2012 Enterprise EditionをWindows認証でインストールする場合を例としています。

1. SQL Server 2012 Enterprise EditionのDVD をDVD / CD-RW ドライブに挿入します。
2. DVD / CD-RW ドライブ配下のsetup.exe をダブルクリックします。
3. インストーラの画面が起動します。
表示される画面に従って操作を進めてください。
4. セットアップの途中で、「機能の選択」ダイアログボックスが表示されます。
以下のチェックボックスをオンにし、[次へ(N)] をクリックします。
 - SSCCMDB の場合: [データベース エンジン サービス]
 - DPMDBI の場合: [データベース エンジン サービス]、[SQL Server レプリケーション]
5. 「インスタンスの構成」ダイアログボックスが表示されます。
[名前付きインスタンス(A)] をオンにし、テキストボックスに「SSCCMDB」、または「DPMDBI」と入力し、[次へ(N)] をクリックします。
6. セットアップの途中で、「データベースエンジンの構成」ダイアログボックスが表示されます。
[Windows 認証モード(W)] をオンにします。
7. SQL Server 管理者の指定で、[現在のユーザーの追加(C)] をクリックします。
8. SQL Server 管理者の指定で、[追加(A)] をクリックします。
9. 「ユーザーまたはグループの選択」ダイアログボックスが表示されます。
[選択するオブジェクト名を入力してください(例)(E):] に"SYSTEM" と入力し、[OK] をクリックします。
10. 「データベースエンジンの構成」ダイアログボックスが表示されます。[次へ(N)] をクリックします。

以降は画面の指示に従って、セットアップを完了してください。

[上記手順を実施しなかった場合の影響と対処方法]

- 現象: インストール済みのSQL Server 2012のインスタンスを指定してSigmaSystemCenterをインストールすると、インストール後に以下のサービスが開始できません。
 - PVMService
 - System Monitor Performance Monitoring Service
 - DeploymentManager API Service
 - DeploymentManager Schedule Management
- 原因: サービス開始時のSQL Serverへの接続で権限不足のためエラーになります。
手動でSQL Server 2012のインスタンスをインストールした際に、"NT AUTHORITY\SYSTEM(SYSTEM)"が追加されなかった場合に発生します。
- 対処方法: コマンドプロンプトで以下のそれぞれのコマンドを実行してください。
その後、開始できなかったサービスを開始してください。

```
sqlcmd -E -S (local)\SSCCMDB
1> ALTER SERVER ROLE [sysadmin] ADD MEMBER [NT AUTHORITY\SYSTEM]
2> go
```

```
sqlcmd -E -S (local)\DPMDBI
1> ALTER SERVER ROLE [sysadmin] ADD MEMBER [NT AUTHORITY\SYSTEM]
2> go
```

3. セキュリティレベルが異なる複数のネットワークに接続する管理サーバでインストールする場合の注意事項

[バージョン]

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

[現象]

セキュリティレベルが異なる複数のネットワークに接続する管理サーバでインストールを実行した時、各製品の受信規則がWindowsファイアウォールの有効な全てのプロファイルに適用されない問題が発生します。問題が発生する条件は以下の通りです。

- 管理サーバにWindows Server 2008 R2以降を使用している。
- 管理サーバのWindowsファイアウォールの設定では、「パブリック」、「プライベート」、「ドメイン」のプロファイルのうち2つ以上が有効になっている。
- SigmaSystemCenterインストーラの「Windowsファイアウォールの指定」画面で、Windowsファイアウォールの例外リストにプログラム、またはポートを追加する設定でインストールを実行した場合。

問題が発生すると、Windowsファイアウォールの「パブリック」、「プライベート」、「ドメイン」の中の有効なプロファイルのうち、より制約の多いプロファイルに受信規則が適用されます。制約の多い順序は、「パブリック」、「プライベート」、「ドメイン」です。例えば、ドメインネットワークとパブリックネットワークがある場合はパブリックプロファイルのみに適用されます。

有効な全てのプロファイルに適用されないWindowsファイアウォールの規則は、以下の受信規則です。DeploymentManagerの受信規則については、SSC3.1以降では問題は発生しません。

SSC3.0

- SystemProvisioning
 - SystemProvisioning (UDP)
 - SystemProvisioning (TCP)
- SystemMonitor性能監視
 - SystemMonitor性能監視 (UDP)
 - SystemMonitor性能監視 (TCP)
- ESMPRO/ServerManager
 - Alert Manager Socket(R) Service (UDP)
 - Alert Manager Socket(R) Service (TCP)
 - ESM Base Service (UDP)
 - ESM Base Service (TCP)
 - ESMPRO/SM Common Component (UDP)
 - ESMPRO/SM Common Component (TCP)
 - ESMPRO/SM Web Container (UDP)
 - ESMPRO/SM Web Container (TCP)
- DeploymentManager
 - DeploymentManager(TCP: 111)
 - DeploymentManager(TCP: 2049)
 - DeploymentManager(TCP: 56011)
 - DeploymentManager(TCP: 56020)
 - DeploymentManager(TCP: 56022)
 - DeploymentManager(TCP: 56023)
 - DeploymentManager(TCP: 56024)
 - DeploymentManager(TCP: 56028)
 - DeploymentManager(TCP: 56030)

- DeploymentManager(TCP: 56050)
- DeploymentManager(TCP: 56060)
- DeploymentManager(UDP: 111)
- DeploymentManager(UDP: 2049)
- DeploymentManager(UDP: 4011)
- DeploymentManager(UDP: 67)
- DeploymentManager(UDP: 69)

SSC3.Ou1

- SystemProvisioning
 - SystemProvisioning (UDP)
 - SystemProvisioning (TCP)
 - SystemProvisioning Web API Service (TCP)
- SystemMonitor性能監視
 - SystemMonitor性能監視 (UDP)
 - SystemMonitor性能監視 (TCP)
- ESMPRO/ServerManager
 - Alert Manager Socket(R) Service (UDP)
 - Alert Manager Socket(R) Service (TCP)
 - ESM Base Service (UDP)
 - ESM Base Service (TCP)
 - ESMPRO/SM Common Component (UDP)
 - ESMPRO/SM Common Component (TCP)
 - ESMPRO/SM Web Container (UDP)
 - ESMPRO/SM Web Container (TCP)
- DeploymentManager
 - DeploymentManager(TCP: 111)
 - DeploymentManager(TCP: 2049)
 - DeploymentManager(TCP: 56011)
 - DeploymentManager(TCP: 56020)
 - DeploymentManager(TCP: 56022)
 - DeploymentManager(TCP: 56023)
 - DeploymentManager(TCP: 56024)
 - DeploymentManager(TCP: 56028)
 - DeploymentManager(TCP: 56030)
 - DeploymentManager(TCP: 56050)
 - DeploymentManager(TCP: 56060)
 - DeploymentManager(UDP: 111)
 - DeploymentManager(UDP: 2049)
 - DeploymentManager(UDP: 4011)
 - DeploymentManager(UDP: 67)
 - DeploymentManager(UDP: 69)

SSC3.1

- SystemProvisioning
 - SystemProvisioning (UDP)
 - SystemProvisioning (TCP)
 - SystemProvisioning Web API Service (TCP)

- SystemMonitor性能監視
 - SystemMonitor性能監視 (UDP)
 - SystemMonitor性能監視 (TCP)
- ESMPRO/ServerManager
 - Alert Manager Socket(R) Service (UDP)
 - Alert Manager Socket(R) Service (TCP)
 - ESM Base Service (UDP)
 - ESM Base Service (TCP)
 - ESMPRO/SM Common Component (UDP)
 - ESMPRO/SM Common Component (TCP)
 - ESMPRO/SM Event Manager (UDP)
 - ESMPRO/SM Event Manager (TCP)
 - ESMPRO/SM Web Container (UDP)
 - ESMPRO/SM Web Container (TCP)

SSC3.1u1

- SystemProvisioning
 - SystemProvisioning (UDP)
 - SystemProvisioning (TCP)
 - SystemProvisioning Web API Service (TCP)
 - SNMP Trap Service (UDP) (*)
 - SNMP Trap Service (TCP) (*)

(*)新規インストール時のみ登録されます。

- SystemMonitor性能監視
 - SystemMonitor性能監視 (UDP)
 - SystemMonitor性能監視 (TCP)
- ESMPRO/ServerManager
 - Alert Manager Socket(R) Service (UDP)
 - Alert Manager Socket(R) Service (TCP)
 - ESM Base Service (UDP)
 - ESM Base Service (TCP)
 - ESMPRO/SM Common Component (UDP)
 - ESMPRO/SM Common Component (TCP)
 - ESMPRO/SM Event Manager (UDP)
 - ESMPRO/SM Event Manager (TCP)
 - ESMPRO/SM Web Container (UDP)
 - ESMPRO/SM Web Container (TCP)
 - SNMP Trap Service (UDP) (*)
 - SNMP Trap Service (TCP) (*)

(*)新規インストール時のみ登録されます。

SSC3.2

- SystemProvisioning
 - SystemProvisioning (UDP)
 - SystemProvisioning (TCP)
 - SystemProvisioning File Transfer Service (TCP)
 - SystemProvisioning Web API Service (TCP)

- SNMP Trap Service (UDP) (*)
- SNMP Trap Service (TCP) (*)

(*)新規インストール時のみ登録されます。

- SystemMonitor性能監視
 - SystemMonitor性能監視 (UDP)
 - SystemMonitor性能監視 (TCP)
- ESMPRO/ServerManager
 - Alert Manager HTTPS Service (UDP)
 - Alert Manager HTTPS Service (TCP)
 - Alert Manager Socket(R) Service (UDP)
 - Alert Manager Socket(R) Service (TCP)
 - ESM Base Service (UDP)
 - ESM Base Service (TCP)
 - ESMPRO/SM Common Component (UDP)
 - ESMPRO/SM Common Component (TCP)
 - ESMPRO/SM Event Manager (UDP)
 - ESMPRO/SM Event Manager (TCP)
 - ESMPRO/SM Web Container (UDP)
 - ESMPRO/SM Web Container (TCP)
 - SNMP Trap Service (UDP) (*)
 - SNMP Trap Service (TCP) (*)

(*)新規インストール時のみ登録されます。

[対処方法]

以下の手順で、必要なプロファイルに受信規則を適用してください。

1. 管理サーバの[管理ツール] - [セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール] から「セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール」画面を起動します。
2. 左ペインの[受信の規則] をクリックします。
3. [受信の規則] のリストで上記の受信規則を選択して、右クリックで[プロパティ] を選択します。「プロパティ」画面の[詳細設定] タブを選択します。適用するプロファイル ([ドメイン]、[パブリック]、[プライベート] のいずれか) のチェックボックスをオンに設定し、[OK] をクリックします。

上記の「SNMP Trap Service」については、新規インストール時のみですが、OSの「SNMP Trap」サービスの使用有無に応じて設定してください。

4. CLUSTERPRO MC ProcessSaverがインストールされている環境でSigmaSystemCenterのアップグレード中にSystemProvisioningのエラーが発生する

[バージョン]

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

[現象]

管理サーバに以下の製品がインストールされている場合、SystemProvisioningのアップグレードインストールをすると、下記メッセージが表示され、アップグレードインストールが失敗します。

- CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.0 ~ 1.1

[メッセージ]

インストールに失敗しました。: SystemProvisioning x.x
SystemProvisioningのインストールに失敗しました。
エラーコード: 8000

[原因]

CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.0 ~ 1.1がインストールされている管理サーバで、SystemProvisioningをアップグレードすると、処理中に行われる旧バージョンのSystemProvisioningのアンインストールにてレジストリキーが削除されません。そのため、SystemProvisioningインストーラはアンインストールに失敗したと判断して、アップグレード処理を中断します。

本現象は、下記の2つの製品のインストーラが使用するGUIDが重複していることが原因で発生します。

- SigmaSystemCenter 2.0 ~ 3.3 の SystemProvisioning
- CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.0 ~ 1.1

2つの製品が共存している場合、SystemProvisioningをアンインストールすると、GUIDが重複していることが影響して、以下のレジストリキー、およびサービスが削除されません。

- レジストリキー
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM (*)
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\AlertReport\SystemProvisioning(Japan) (*)
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\services\eventlog\Application\PVM
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\services\eventlog\Application\PVMService
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\services\PVMService

(*) 32bit OSの場合は"\Wow6432Node"の部分を除外してください。

- サービス
 - PVMService

[対処方法]

対処方法の流れは以下の通りです。

1. 削除されていないレジストリキーを削除する。
2. 管理サーバに、アップグレード前のSystemProvisioningを再インストールする。
3. アップグレード前にバックアップしたデータをリストアする。
4. 製品インストーラのGUIDの情報が登録されたレジストリを操作(削除)する。
5. SystemProvisioningをアップグレードインストールする。
6. 製品インストーラのGUIDの情報が登録されたレジストリを操作(復旧)する。

具体的な手順については、[情報採取]で情報を採取した上で、製品サポート窓口にお問い合わせください。

[情報採取]

1. レジストリエディタを起動し、以下のレジストリキーをエクスポートしてください。
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Installer
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall (*)

- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM (*)

(*) 32bit OSの場合は"\Wow6432Node"の部分を除外してください。

5. CLUSTERPRO MC ProcessSaverがインストールされている環境でアップグレードインストールを行う場合の注意事項

[バージョン]

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

[注意事項]

管理サーバに以下の製品がインストールされている場合、SystemProvisioningのアップグレードインストールをすると、アップグレードインストールが失敗します。

- CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.0 ~ 1.1

この場合、以下の流れでアップグレードインストールを実施する必要があります。

1. 製品インストーラのGUIDの情報が登録されたレジストリを操作(削除)する。
2. SystemProvisioningをアップグレードインストールする。
3. 製品インストーラのGUIDの情報が登録されたレジストリを操作(復旧)する。

具体的な手順については、アップグレードインストールを実施する前に、[情報採取]で情報を採取した上で、製品サポート窓口にお問い合わせください。

[情報採取]

1. レジストリエディタを起動し、以下のレジストリキーをエクスポートしてください。

- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Installer
- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall (*)
- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM (*)

(*) 32bit OSの場合は"\Wow6432Node"の部分を除外してください。

6. CLUSTERPRO MC ProcessSaverがインストールされている環境でアンインストールを行う場合の注意事項

[バージョン]

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

[注意事項]

管理サーバに以下の製品がインストールされている場合、SystemProvisioningをアンインストールすると、SystemProvisioningのレジストリキー、およびサービスが削除されません。

- CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.0 ~ 1.1

SystemProvisioningをアンインストールした後、SystemProvisioningのレジストリキー、およびサービスを手動で削除してください。

[レジストリキー、およびサービスの削除方法]

SystemProvisioningをアンインストールした後、SystemProvisioningのレジストリキー、およびサービスを削除するため、以下の手順を実施してください。

1. レジストリエディタを起動して、以下のレジストリキーを削除します。

- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM (*)
- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\AlertReport\SystemProvisioning(Japan) (*)
- HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\services\eventlog\Application\PVM
- HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\services\eventlog\Application\PVMService
- HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\services\PVMService

(*) 32bit OSの場合は"\Wow6432Node"の部分を除外してください。

2. 管理サーバを再起動します。

7. SigmaSystemCenterのインストール中にDPMサーバのエラーが発生する

[バージョン]

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1

[現象]

SigmaSystemCenterのインストール中に、DPMサーバのインストールが失敗したことを示す以下のメッセージが表示され、インストールが失敗します。エラーコードは表示されません。

[メッセージ]

インストールに失敗しました。 : DPMサーバ x.xx
エラーが発生しました。
エラーコード :

[エラーの原因の確認方法]

%WINDIR%配下のInst_Dpm_Mng.log、Inst_Dpm_Db.logを確認してください。

Inst_Dpm_Mng.log に以下のログが出力されている場合は、「SQL Serverのインストール後、再起動が必要な場合」を参照してください。

A system reboot required before the installation can continue.
インストール前に、再起動必要。

Inst_Dpm_Db.log に以下のログが出力されている場合は、「データベース構築に失敗する場合」を参照してください。

メッセージ 5133、レベル 16、状態 1、サーバー xxxxx¥DPMDBI、行 1
オペレーティング システム エラー 2(指定されたファイルが見つかりません。)により、
ファイル "C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL10_50.DPMDBI¥MSSQL¥Data¥DPM_DATA.MDF"
のディレクトリ参照に失敗しました。

7.1. SQL Serverのインストール後、再起動が必要な場合

[原因]

DeploymentManager用のSQL Serverのインスタンス(DPMDBI)をインストールする前に、管理サーバの再起動が必要だった可能性があります。

SigmaSystemCenterではSystemProvisioning、SystemMonitor性能監視用のインスタンス(SSCCMDB)とDeploymentManager用のインスタンス(DPMDBI)のインストールを行います。SystemProvisioning、SystemMonitor用のインスタンス(SSCCMDB)インストール後に、管理サーバの再起動が必要な場合があります。本原因の問題は、SigmaSystemCenter3.1 Update1で対応済みです。

[対処方法]

管理サーバを再起動後、DPMサーバのインストールから再実施してください。

7.2.データベース構築に失敗する場合

2つの原因が考えられます。

原因を特定するために、引き続き以下の[確認手順1]、および[確認手順2]を確認してください。

そして、[原因1]、[原因2]のそれぞれに対応する[対処方法1]、[対処方法2]を実施してください。

なお、本手順では、64bit OSにSQL Server 2008 R2 x64をインストールした場合を想定して記載しています。

ご使用のOS、SQL Serverによって、レジストリキーを適宜読み替えてください。

- 64bit OSにSQL Server x64をインストールした場合
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft SQL Server
- 64bit OSにSQL Server x86をインストールした場合
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Microsoft\Microsoft SQL Server
- 32bit OSにSQL Server x86をインストールした場合
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft SQL Server

- 64bit OSの場合
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\DeploymentManager_DB
- 32bit OSの場合
HEKY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\DeploymentManager_DB

[確認手順1]

1. レジストリエディタを起動し、下記値のデータを確認します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft SQL
Server\Instance Names\SQL
値: DPMDBI
データの例: MSSQL10_50.DPMDBI

2. 下記値のデータを確認します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft SQL Server\
[1のデータ]\Setup
値: SQLPath
データの例: C:\Program Files\Microsoft SQL
Server\MSSQL10_50.DPMDBI\MSSQL

1のデータが MSSQL10_50.DPMDBI であれば、下記のキーです。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft SQL
Server\MSSQL10_50.DPMDBI\Setup

3. 下記値のデータを確認します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft SQL Server\
[1のデータ]\Setup
値: SQLDataRoot
データの例: V:\Program Files\Microsoft SQL
Server\MSSQL10_50.DPMDBI\MSSQL

1のデータが MSSQL10_50.DPMDBI であれば、下記のキーです。
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft SQL
Server\MSSQL10_50.DPMDBI\Setup

4. 2と3で確認したデータを比較します。

2のデータが、3のデータと異なる場合、[原因1]であると考えられます。[対処方法
1]を実施してください。同じ場合は、[確認手順2]を確認してください。

[原因1]

SigmaSystemCenterをインストールする前に、DeploymentManager用のSQL Serverのインスタン
ス(DPMDBI)を手動でインストールした際に、[データ ルート ディレクトリ]を既定値から変更したことが原因
で、インストールエラーが発生した可能性があります。本原因の問題は、SigmaSystemCenter3.1
Update1で対応済みです。

[対処方法1]

1. レジストリエディタを起動し、[確認手順1]で確認した 3のデータに[\\DATA]を追加して下記値のデータに
登録します。なお、下記のレジストリキー、および値が存在しない場合は、新規追加してください。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node
\NEC\DeploymentManager_DB
値: DBInstallDir

[確認手順1]で確認した 2のデータが例の場合、下記を登録します。

V:\Program Files\Microsoft SQL
Server\MSSQL10_50.DPMDBI\MSSQL\DATA

2. レジストリエディタを終了し、DPMサーバのインストールを再実施してください。

[確認手順2]

1. レジストリエディタを起動し、下記値のデータを確認します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft SQL
Server\Instance Names\SQL
値: DPMDBI
データの例: MSSQL10_50.DPMDBI

2. 下記値のデータを確認します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft SQL Server\
[1のデータ]\Setup
値: SQLDataRoot
データの例: V:\Program Files\Microsoft SQL
Server\MSSQL10_50.DPMDBI\MSSQL

1のデータが MSSQL10_50.DPMDBI であれば、下記のキーです。
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft SQL
Server\MSSQL10_50.DPMDBI\Setup

3. 下記値のデータを確認します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node
\NEC\DeploymentManager_DB
値: DBInstallDir
データの例: V:\Program Files\Microsoft SQL
Server\MSSQL10_50.DPMDBI\MSSQL\DATA

4. 2と3で確認したデータを比較します。

2のデータに[\DATA]を追加したデータが、3のデータと異なる場合、[原因2]であ
ると考えられます。[対処方法2]を実施してください。

[原因2]

SigmaSystemCenterのインストール失敗などの対処のために、インストール済みのDPMサーバ、および
DeploymentManager用のインスタンス(DPMDBI)を一旦アンインストールし、その後再インストールした
場合に、インスタンスのインストールパスが原因で、インストールエラーが発生した可能性があります。本原
因の問題は、SigmaSystemCenter3.1 Update1で対応済みです。

[対処方法2]

1. レジストリエディタを起動し、[確認手順2]で確認した 2のデータに[\DATA]を追加して下記値のデータに
登録します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node
\NEC\DeploymentManager_DB
値: DBInstallDir

[確認手順2]で確認した 2のデータが例の場合、下記を登録します。

V:\Program Files\Microsoft SQL
Server\MSSQL10_50.DPMDBI\MSSQL\DATA

2. レジストリエディタを終了し、DPMサーバのインストールを再実施してください。

8. SigmaSystemCenterをアップグレードインストールする際の、SystemProvisioning のレジストリに関する注意事項

8.1. SigmaSystemCenterをアップグレードインストールすると、SystemProvisioningのレジストリが 既定値に設定される

[バージョン]

SSC3.2

[注意事項]

SigmaSystemCenter 3.1u1から3.2にアップグレードすると、SystemProvisioningが使用する以下の
レジストリのデータが既定値に設定されます。

そのため、アップグレードする前に設定していたデータを、アップグレード後に再設定する必要があります。

本注意事項は、アップグレード前に、以下のレジストリのデータを既定値から変更していた場合のみに適用されます。

レジストリのデータを既定値から変更していない場合は問題は発生しないため、対処は不要です。

キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\base\LDAP
(*)
名前: CacheExpiration
データの説明: LDAPサーバでの認証に成功したユーザのパスワードをSigmaSystemCenterで保持する時間です。既定値は、24(時間)です。

(*) 32bit OSの場合は"\Wow6432Node"の部分を除外してください。

[対処方法]

レジストリエディタを起動し、アップグレードする前に設定していたデータを再設定してください。

手順は以下の通りです。

● クラスタ環境でない場合

1. レジストリデータの再設定

レジストリエディタを起動し、アップグレードする前に設定していたデータを再設定してください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

PVMService

2. レジストリエディタを起動し、以下のようにレジストリを修正します。

アップグレードする前にレジストリに設定していたデータを「60」とした場合を例としています。

キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\base\LDAP (*)
名前: CacheExpiration
変更前のデータ: 24
変更後のデータ: 60

(*) 32bit OSの場合は"\Wow6432Node"の部分を除外してください。

3. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを開始します。

PVMService

● クラスタ環境の場合

「現用系サーバ」で本手順を実施下さい。

1. 監視対象サービスの監視の停止

レジストリの変更を実施する前に、CLUSTERPROで監視対象サービスの監視の停止を実施してください。

1. [スタート] メニューから [すべてのプログラム(P)] - [CLUSTERPRO Server] - [タスクマネージャ] を開きます。
2. 「アプリケーション/ サービス名」で表示されている、PVMServiceの監視を停止します。停止するサービスを以下の方法で「非監視」に設定してください。

(サービスを「非監視」に設定する方法)

- 表示されているサービス名を右クリックします。
- [監視停止] を選択し、「実行確認」画面で [OK] をクリックして監視を停止します。
- このとき、監視対象サービスの [監視状態] が「非監視」に変わることを確認してください。

3. 停止するサービスが「非監視」に設定されたことを確認し、タスクマネージャを終了します。

2. レジストリデータの再設定

レジストリエディタを起動し、アップグレードする前に設定していたデータを再設定してください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

PVMService

2. レジストリエディタを起動し、以下のようにレジストリを修正します。
アップグレードする前にレジストリに設定していたデータを「60」とした場合を例としています。

キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\base\LDAP (*)
名前 : CacheExpiration
変更前のデータ : 24
変更後のデータ : 60

(*) 32bit OSの場合は"%Wow6432Node"の部分を除外してください。

3. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを開始します。

PVMService

3. 監視対象サービスの監視の再開

レジストリの変更が完了した後に、CLUSTERPROで監視対象サービスの監視の再開を実施してください。

1. [スタート] メニューから [すべてのプログラム(P)] - [CLUSTERPRO Server] - [タスクマネージャ] を開きます。
2. 「アプリケーション/ サービス名」で表示されている、PVMServiceの監視を開始します。開始するサービスを以下の方法で「監視中」に設定してください。
(サービスを「監視中」に設定する方法)
 - 表示されているサービス名を右クリックします。
 - [監視再開] を選択し、「実行確認」画面で[OK] をクリックして監視を開始します。
 - このとき、監視対象サービスの[監視状態] が「監視中」に変わることを確認してください。
3. 開始するサービスが「監視中」に設定されたことを確認し、タスクマネージャを終了します。

8.2. SigmaSystemCenterをアップグレードインストールすると、SystemProvisioningのレジストリが削除される

[バージョン]

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

[注意事項]

SigmaSystemCenter をアップグレードすると、SystemProvisioningが使用する以下のレジストリのデータが削除されます。

そのため、アップグレードする前に設定していたデータを、アップグレード後に再設定する必要があります。

本注意事項の対象となるのは、アップグレード前に、以下のレジストリのデータを手動で追加していた場合のみです。

レジストリを追加していない場合は問題は発生しないため、対処は不要です。

- キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\Storage\Clarix (*)
 - 名前 : failovermode
- キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\SNMPTrapReceiver (*)
 - 名前 : EnableReceivingPet
 - 名前 : EnableReceivingVendorSpecificSNMPTrap

- キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\HyperV (*)
 - 名前: EnableVMOffEvent
 - 名前: FreeSpaceThreshold
 - 名前: DiskUsageThreshold
 - 名前: DisableDiskUsageMonitor
 - 名前: MigrateTimeout
- キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\DPMPProvider (*)
 - 名前: DelimiterWwn
- キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (*)
 - 名前: DirectConnectForVmConsole
 - 名前: EnableIPSetting
 - 名前: SysprepWaitCount
 - 名前: CreateReplicaTimeout
 - 名前: BeforeForcePowerOffTimeout
 - 名前: DisableVMServerTimeout
 - 名前: EnableCheckPowerStatus
 - 名前: EnableDefaultVmPortgroup
 - 名前: IgnoreIpWaitTimeout
 - 名前: IpSettingGuestWatchTimeout
 - 名前: SysprepWaitDHCPTimeout
 - 名前: SysprepWaitFixedIPTimeout
 - 名前: VmPowerOffTimeout
 - 名前: VmShutdownTimeout
 - 名前: WaitAfterReboot
 - 名前: WaitBeforePowerOnTask
 - 名前: WaitForRetryPowerOn

(*) 32bit OSの場合は"\Wow6432Node"の部分を除外してください。

[対処方法]

レジストリエディタを起動し、アップグレードする前に設定していたデータを再設定してください。

手順は以下の通りです。

● クラスタ環境でない場合

1. レジストリデータの再設定

レジストリエディタを起動し、アップグレードする前に設定していたデータを再設定してください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

PVMService

2. レジストリエディタを起動し、レジストリを追加します。

例えば、アップグレードする前に、以下のレジストリにデータを設定していた場合、名前「EnableVMOffEvent」を追加し、データ「1」を設定します。

キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\HyperV (*)
 名前: EnableVMOffEvent
 データ: 1

(*) 32bit OSの場合は"\Wow6432Node"の部分を除外してください。

3. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを開始します。

PVMService

- クラスタ環境の場合

「現用系サーバ」で本手順を実施下さい。

1. 監視対象サービスの監視の停止

レジストリの変更を実施する前に、CLUSTERPROで監視対象サービスの監視の停止を実施してください。

1. [スタート] メニューから[すべてのプログラム(P)] - [CLUSTERPRO Server] - [タスクマネージャ] を開きます。
2. 「アプリケーション/ サービス名」で表示されている、PVMServiceの監視を停止します。停止するサービスを以下の方法で「非監視」に設定してください。
(サービスを「非監視」に設定する方法)
 - 表示されているサービス名を右クリックします。
 - [監視停止] を選択し、「実行確認」画面で[OK] をクリックして監視を停止します。
 - このとき、監視対象サービスの[監視状態] が「非監視」に変わることを確認してください。
3. 停止するサービスが「非監視」に設定されたことを確認し、タスクマネージャを終了します。

2. レジストリデータの再設定

レジストリエディタを起動し、アップグレードする前に設定していたデータを再設定してください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

PVMService

2. レジストリエディタを起動し、レジストリを追加します。

例えば、アップグレードする前に、以下のレジストリにデータを設定していた場合、名前「EnableVMOffEvent」を追加し、データ「1」を設定します。

```
キー：HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\HyperV (*)
名前：EnableVMOffEvent
データ：1
```

(*) 32bit OSの場合は「\Wow6432Node」の部分を除外してください。

3. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを開始します。

PVMService

3. 監視対象サービスの監視の再開

レジストリの変更が完了した後に、CLUSTERPROで監視対象サービスの監視の再開を実施してください。

1. [スタート] メニューから[すべてのプログラム(P)] - [CLUSTERPRO Server] - [タスクマネージャ] を開きます。
2. 「アプリケーション/ サービス名」で表示されている、PVMServiceの監視を開始します。開始するサービスを以下の方法で「監視中」に設定してください。
(サービスを「監視中」に設定する方法)
 - 表示されているサービス名を右クリックします。
 - [監視再開] を選択し、「実行確認」画面で[OK] をクリックして監視を開始します。
 - このとき、監視対象サービスの[監視状態] が「監視中」に変わることを確認してください。
3. 開始するサービスが「監視中」に設定されたことを確認し、タスクマネージャを終了します。

[各レジストリの説明、影響範囲]

各レジストリデータの説明、およびSigmaSystemCenterのアップグレード後にレジストリデータが削除されることによる影響範囲は以下の通りです。

- キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\Storage\Clarix (*)

名前: failovermode

<バージョン>

SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

CLARiX/VNXのディスクアレイ上のディスクボリュームの接続の制御を行う際に指定するフェイルオーバー・モードを決定します。

4: 非対称アクティブ/アクティブ(既定値)

その他の値に対する動作の違いは、EMCが提供する情報を参照ください。

<http://japan.emc.com/microsites/japan/techcommunity/pratech/wp-dr/h28902-j.htm>

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値以外を指定していた場合、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、ストレージ制御時にfailovermodeが既定値(4)で実行され、予期しない動きとなります。
- キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\SNMPTrapReceiver (*)

名前: EnableReceivingPet

<バージョン>

SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

PET受信機能の使用可否を決定します。

1: 使用する(既定値)、0: 使用しない

「使用する」(1)が設定されている場合、PVMService起動時にSNMP Trapサービスが起動されます。

<影響範囲>

上記のレジストリに「使用しない」(0)が設定されていた場合、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、PVMService起動時にSNMP Trapサービスが起動されるようになります。
- キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\SNMPTrapReceiver (*)

名前: EnableReceivingVendorSpecificSNMPTrap

<バージョン>

SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

ベンダ固有SNMP Trap受信機能の使用可否を決定します。

1: 使用する(既定値)、0: 使用しない

「使用する」(1)が設定されている場合、PVMService起動時にSNMP Trapサービスが起動されます。

<影響範囲>

上記のレジストリに「使用しない」(0)が設定されていた場合、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、PVMService起動時にSNMP Trapサービスが起動されるようになります。
- キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\HyperV (*)

名前: EnableVMOffEvent

<バージョン>

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

クラスタ環境にVMオフを検出するイベントが有効か、無効かを指定します。

無効の場合、クラスタ環境のVMオフが発生したとき、ユーザに通報しません。

0: イベントを無効にします(既定値)。

1: イベントを有効にします。

<影響範囲>

上記のレジストリに「有効」(1)が設定されていた場合、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、既定値(0)で実行され、クラスタ環境のVMオフが発生したとき、ユーザに通報されなくなります。

- キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\HyperV (*)
名前 : FreeSpaceThreshold
<バージョン>
SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2
<説明>
ディスク空き容量と比較して、閾値を超した場合に、ディスク空き容量不足の通報を行います。
ディスク容量の空き領域の閾値をレジストリにより変更できます。
2048 : 既定値
2048以外の値 : 閾値(単位:MB)を指定します。
<影響範囲>
上記のレジストリに既定値(2048)以外の値が設定されていた場合、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、閾値に既定値(2048)が使用され、予期しない動きとなります。
- キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\HyperV (*)
名前 : DiskUsageThreshold
<バージョン>
SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2
<説明>
ディスク使用率と比較して、閾値を超した場合に、ディスク使用率超過の通報を行います。
ディスク使用率の閾値をレジストリにより変更できます。
75 : 既定値
75以外の値 : 使用率(パーセント)を指定します。
<影響範囲>
上記のレジストリに既定値(75)以外の値が設定されていた場合、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、閾値に既定値(75)が使用され、予期しない動きとなります。
- キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\HyperV (*)
名前 : DisableDiskUsageMonitor
<バージョン>
SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2
<説明>
クラスタディスクに関して、容量や状態やリソースなどを変更した場合、監視有効の設定より通報を行えます。
Hyper-V クラスタ管理対象について、ディスク容量を監視するかどうかを変更できます。
0 : 監視有効(既定値)
1 : 監視無効
<影響範囲>
上記のレジストリに1が設定されていた場合、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、0(既定値)で実行され、監視有効の設定より通報が行われるようになります。
- キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\HyperV (*)
名前 : MigrateTimeout
<バージョン>
SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2
<説明>
仮想マシン移動操作のタイムアウトを、以下のレジストリ値で変更できます。

大きなタイムアウトを設定することにより、仮想マシン移動操作の時間を増やすことができます。

300：既定値

300以外の値：移動のタイムアウト(秒)を指定します。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(300)以外の値が設定されていた場合、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、仮想マシン移動操作のタイムアウトが300(既定値)で実行され、予期しない動きとなります。

- キー：HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\DPMPProvider (*)

名前：DelimiterWwn

<バージョン>

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

ローカルスクリプト、またはアプリケーション/パッチのコマンドオプションにて使用する予約変数

PVM_HBA_WWN_n_m、\$:HBA_WWN_n_mに設定されるHBAのアドレスでアドレスの区切り文字を削除するか、削除しないかを指定します。

0：区切り文字を削除します(既定値)。

1：区切り文字を削除しません。

<影響範囲>

上記レジストリに1が設定されていた場合、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、予約変数 PVM_HBA_WWN_n_m、\$:HBA_WWN_n_mに設定されるHBAのアドレスは区切り文字が削除されます。

例)

アドレス：AAAA-BBBB-CCCC-DDDDの場合、値はAAAABBBBCCCCDDDDとなります。

- キー：HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (*)

名前：DirectConnectForVmConsole

<バージョン>

SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

仮想ビューでVMのコンソール画面に接続する際に、VMware ESXiのrootアカウントを用いるか否かを決定します(対象の仮想環境がVMware vSphere5.1以降の場合のみ有効、5.0以前では指定は無視され無効となります)。

1：VMware ESXiのrootアカウントで接続を行います。

0：VMware vCenter Serverをサブシステムに追加した際のアカウントで接続を行います(既定値)。

<影響範囲>

VMware vSphere5.1以降の環境で、上記のレジストリに 1 が設定されていた場合、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、VMのコンソール画面に接続できなくなる可能性があります。

- キー：HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (*)

名前：EnableIPSetting

<バージョン>

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

ESXiのプロビジョニング時にvCenter ServerにIPアドレスで登録する場合に指定します。

0：FQDNで登録します。(既定値)

1：IPアドレスで登録します。

<影響範囲>

上記のレジストリに1が設定されていた場合、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、ESXiプロビジョニングでvCenter Server にFQDNで登録されます。

- キー：HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM

\\VMware (*)

名前: SysprepWaitCount

<バージョン>

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

仮想マシンの作成時に個性反映後に一定時間待ち合わせる場合に指定します。

レジストリ EnableWaitForSysprep が 0 以外の場合に有効になります。

既定では待ち合わせません。

固定IPアドレスの場合： 指定値×20秒(レジストリ SysprepWaitFixedIPTimeout で変更可能)

DHCPの場合： 指定値×60秒 (レジストリ SysprepWaitDHCPTIMEOUT で変更可能)

<影響範囲>

上記のレジストリを設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、個性反映後に待ち合わせを行わず個性反映が正常に行われない可能性があります。

- キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\\VMware (*)

名前: CreateReplicaTimeout

<バージョン>

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

Differential Clone, Disk Clone のテンプレートから仮想マシンを作成するときのレプリカVMの作成処理のタイムアウト時間を指定します。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(3600)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、レプリカVMの作成処理は1時間でタイムアウトが発生し、仮想マシンの作成処理がエラーになります。

- キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\\VMware (*)

名前: BeforeForcePowerOffTimeout

<バージョン>

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

仮想マシンの再起動時に行うシャットダウンの待ち合わせ時間を指定します。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(300)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、仮想マシンのシャットダウンに時間を要する場合にタイムアウトが発生し、再起動操作がエラーになります。

- キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\\VMware (*)

名前: DisableVMServerTimeout

<バージョン>

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

フェイルオーバー時はESXiの接続状態が接続以外になる必要があります。

ESXiを接続以外の状態になるまで待ち合わせ、接続状態以外にならなかった場合に切断するまでの時間を指定します。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(600)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、ESXiが接続状態のままフェイルオーバーを行うため、フェイルオーバーが失敗する可能性があります。

- キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (*)

名前: EnableCheckPowerStatus

<バージョン>

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

仮想マシンを起動状態でVM編集が可能かどうかを指定します。

0: 不可

1: 可能(既定値)

<影響範囲>

上記のレジストリに0を値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、仮想マシンの起動状態でVM編集をガードできません。
- キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (*)

名前: EnableDefaultVmPortgroup

<バージョン>

SSC3.2

<説明>

ESXプロビジョニング時に既定のポートグループを作成するかどうかを指定します。

0: 作成しない。(既定値)

1: 作成する。

<影響範囲>

上記のレジストリに1を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、ESXiプロビジョニング時に既定のポートグループが作成されません。
- キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (*)

名前: IgnoreIpWaitTimeout

<バージョン>

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

仮想マシンの起動時にIPアドレスが割り当たらなかった場合にエラーにするかどうかを指定します。

0: エラーにする。

1: 警告にする。(既定値)

<影響範囲>

上記のレジストリに0を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、仮想マシンの起動時にIPアドレスが割り当たらなかった場合にエラーになりません。
- キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (*)

名前: IpSettingGuestWatchTimeout

<バージョン>

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

仮想マシンの起動時にIPアドレスが割り当たるまで待ち合わせる時間を指定します。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(180)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、指定した時間中にIPアドレスが割り当たらなかった場合に警告またはエラーが発生します。
- キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (*)

名前: SysprepWaitDHCPTimeout

<バージョン>

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

仮想マシンの作成時に個性反映後に一定時間待ち合わせる場合に指定します。

レジストリ EnableWaitForSysprep が 0 以外の場合に有効になります。

仮想マシンがDHCP設定の場合に使用されます。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(60)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、個性反映後に待ち合わせを行わず個性反映が正常に行われない可能性があります。

- キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (*)

名前 : SysprepWaitFixedIPTimeout

<バージョン>

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

仮想マシンの作成時に個性反映後に一定時間待ち合わせる場合に指定します。

レジストリ EnableWaitForSysprep が 0 以外の場合に有効になります。

仮想マシンが固定IPアドレス設定の場合に使用されます。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(20)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、個性反映後に待ち合わせを行わず個性反映が正常に行われない可能性があります。

- キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (*)

名前 : VmPowerOffTimeout

<バージョン>

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

ESXiのシャットダウン時にESXi上にある仮想マシンの強制OFFのタイムアウト時間を指定します。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(2)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、ESXiのシャットダウン時に仮想マシンが正常に電源OFFしない場合があります。

- キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (*)

名前 : VmShutdownTimeout

<バージョン>

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

ESXiのシャットダウン時にESXi上にある仮想マシンのシャットダウンのタイムアウト時間を指定します。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(10)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、ESXiのシャットダウン時に仮想マシンが正常に電源OFFしない場合があります。

- キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (*)

名前 : WaitAfterReboot

<バージョン>

SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2

<説明>

仮想マシンの再起動時に操作を完了する前に待ち合わせる時間を指定します。

<影響範囲>

上記のレジストリに既定値(0)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、仮想マシンの再起動でゲストOSの起動が完了していない可能性があります。

- キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (*)
名前 : WaitBeforePowerOnTask
<バージョン>
SSC3.2
<説明>
仮想マシンの再起動時に行う起動前の待ち合わせ時間を指定します。
<影響範囲>
上記のレジストリに既定値(10)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、仮想マシンの起動処理がエラーになる可能性があります。
- キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware (*)
名前 : WaitForRetryPowerOn
<バージョン>
SSC3.0, SSC3.0u1, SSC3.1, SSC3.1u1, SSC3.2
<説明>
仮想マシンの起動がファイルロックエラーで失敗した場合に起動処理をリトライするまでの待ち合わせ時間を指定します。
<影響範囲>
上記のレジストリに既定値(1)以外の値を設定していた場合に、アップグレード後にレジストリが無くなることにより、待ち合わせ時間が短い場合にリトライの起動処理でもファイルロックエラーが発生する可能性があります。

(*) 32bit OSの場合は"\Wow6432Node"の部分を除外してください。

【参考情報】

下記インストールガイドの「5. トラブルシューティング」の説明も参照してください。

- WebSAM SigmaSystemCenter 3.2 インストールガイド 第1版
http://jpn.nec.com/websam/sigmasystemcenter/download/3_2/InstallationGuide_32-1.pdf
- WebSAM SigmaSystemCenter 3.1 インストールガイド 第2版
http://jpn.nec.com/websam/sigmasystemcenter/download/3_1/InstallationGuide_31-2.pdf
- WebSAM SigmaSystemCenter 3.0 インストールガイド 第2版
http://jpn.nec.com/websam/sigmasystemcenter/download/3_0/InstallationGuide_30-2.pdf